令和7年度　大田区立六郷中学校　自己評価　報告書

○　本校の概要　　令和8年3月6日

○令和8年度1月8日現在
<全生徒数>383名　第1学年111名　第2学年131名　第3学年121名　特別支援学級(6組)13名
<学校教育目標>　1．知的で型性豊かな生徒を育てる。 2．健康認識で活躍する生徒を育てる。
<目指の重点>　1．学力の充実に努める高度な授業　2．生徒の連帯を深める美しい心　3．環境を整備する きれいな学校
<学校のスローガン>あ・じ・み　あいさつをする！時間を守る・身だしみを整える

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	自己評価	人数	学校関係者記入欄 コメント
生予測き測する目力題標をな1育未成熟し社会すを創造的に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学び や科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っています。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	「自分の学力は向上していると思う」とアンケートに答えた生徒の割合	4 80%以上	（これまでの取り組み） ・修学旅行を通して SDGSの調べ学習をしたり、進路に関して自分を知ることから始め、自己実現に向けた活動を行なっています。 ・各教科に時事問題を取り入れ、タブレット端末を用いた協働学習を多く取り入れている。 ・主に学活や総合的な学習の時間を通して、ある課題について、まずは個別で考えさせ、その後みんなでグループでシェアさせたりする経験を積ませて課題解決力、情報活用能力を育成している。 ・総合等の授業において、課題に対してグループで取り組み、ICT機器を活用して情報を収集したり整理したりしたがらまとめ、表現する取り組みを行っている。 （今後の改善策） ・防災拠点訓練などを通して、中学生でも出来ること、予想される困難に対して何ができるかを考えられる生徒に育成を行う。 ・課題を課題として捉えるように正しく、主体的に考える手だてとも困難であるので、思考や意欲につながるための知識の定着に視点をおけ	A	3	・京都奈良も良いと思うが、同じ六郷の地方農村に修学旅行体験し、SDGsを勉強するのも良いと思う。 ・先生方の取り組みに頭が下がる思いである。今後とも地域に対してもこの努力が生かされるようお願いする。 ・校長をはじめ教員の皆様の生徒への愛情ある教育に対し深く敬意を評す。 ・取り組みに対しての改善策が遅遅されていないと感じたが、お知らせや広報誌を見れば良いことをしているので評価は高い。 ・防災拠点訓練を含め地域とのつながりをもっていただきたい。 ・地域人材をゲストティーチャーに参加してもらう取り組みなどが必要だと考える。
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づけを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	3.「おおむねできた」と全教員が回答した。	3		3 60%以上		B	5	
			2.「おおむねできた」と回答した教員が80%未満であった。	3		2 50%以上		C	0	
			1.「おおむねできた」と回答した教員が50%未満であった。	3		1 50%未満		D	0	
		③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。	3						
			3.「おおむねできた」と回答した教員が80%以上100%未満であった。	3						
			2.「おおむねできた」と回答した教員が50%以上80%未満であった。	3						
			1.「おおむねできた」と回答した教員が50%未満であった。	3						
		④総合的な学習の時間や特別活動など を活用して、目標を達成・課題を見届し実行するための見通しを適切に設定し、地域や職や外部人材を活用したキャリア教育の推進を図っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。	3						
			3.「おおむねできた」と回答した教員が80%以上100%未満であった。	3						
			2.「おおむねできた」と回答した教員が50%以上80%未満であった。	3						
			1.「おおむねできた」と回答した教員が50%未満であった。	3						
お世別お界別たと目をつ標担なる2うが人る材国際育都成市します	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく姿勢を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っています。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	「私は何事にも目標を もって積極的に取り組んでいる」とアンケートに答えた生徒の割合	4 80%以上	（これまでの取り組み） ・移動教室などの行事を通して文化や伝統について学んでいる。 ・英語の学習にゲームや歌を多く取り入れて、楽しみながら英語に触れる機会を作っている。 ・百人一首大会を実施したり、道徳でおせち料理を取り上げたりして、日本の伝統とそれを受け継ぐことについて考えさせている。 ・コミュニケーション能力を高めるために、会話練習の場面設定をしつかりと行った り会話の中で実際に使うことが多い表現を使ったやりとりの実践をしたりと授業の工夫をしている。 ・地域と協力し、松竹でのボランティア活動の呼び掛けなどを定期的に行うことで、地域社会への関心を高めることがしずつできている。 ・ALTの授業を活用して英語でのコミュニケーション能力を高めたり、道徳、音楽の授業を通して郷土の伝統文化に触れさせ、まずは自	A	6	・伝統文化をつないでいくのはとても大切なことだと思う。 ・災害時の問題は地域にとって大きな課題である。生徒の間にが高まる取り組みを地域としても協力していきたいと思う。 ・方向性、取り組み内容は大変良い。取り組み事項も良い。町会としても協力させていただく。
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をつ他者を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	3.「おおむねできた」と全教員が回答した。	3		3 65%以上		B	2	
			2.「おおむねできた」と回答した教員が80%以上100%未満であった。	3		2 50%以上		C	0	
			1.「おおむねできた」と回答した教員が50%未満であった。	3		1 50%未満		D	0	
		③現代社会における地球規模の課題を分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。	2						
			3.「おおむねできた」と回答した教員が80%以上100%未満であった。	2						
			2.「おおむねできた」と回答した教員が50%以上80%未満であった。	2						
			1.「おおむねできた」と回答した教員が50%未満であった。							
たー個人別のり目基と標礎り3とがな個性力とを能育成をし発揮します	児童・生徒が豊かな人生を生きていくと不基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①特別の教科道徳を中心とした各教科等の学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。	2	「私は国に対しても思いやりのある言動をしている」とアンケートに答えた生徒の割合	4 80%以上	（これまでの取り組み） ・特別支援教育において、担任会や欠学相談の場で学習面、生活面ともに丁寧に連携を行っている。人との関わり方については日々の学校生活や道徳の授業で指導している。また様々な計算をくり返し学習し、買い物学習などの実践をしている。 ・健やかな体を育成するために、生活習慣に関する指導を保健だより等を活用して行なっている。 ・基礎学力定着に向けて日常的な小テストの実施などがきちんと行われている。 ・乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進するために、個かれた学校を目指し、令3現以上の学校公開を実施したり、職場体験・小中一貫教育の会などでお互いに訪問し、情報交換を行った!!している。 ・あいさつ、時間を守る、身だしなみの「あ・じ・み」について小学校から中学校まで学校生活の目標として掲げている。 ・授業前の着席も全学年で行えている。 （今後の改善策） ・小学校との情報交換が上手くいっていない。一貫して行う取り組みやフォーマットの共有が必要である。 ・小学校の教員も含めて、義務教育のゴールを考えていく必要があると感じる。 ・家庭学習の定着がさかでおらず、勉強嫌かな学力につながっている。	A	4	・方向性取り組み内容そして取り組み事項は大変良いと感じた。 ・あ・じ・みの実践も丁寧に続けて欲しい。 ・義務教育の最後と考えず高校、大学、専門学校、就職へとつなげられる子供たちの可能性を引き出していって欲しい。
			3.「おおむねできた」と全教員が回答した。	3		3 65%以上		B	4	
			2.「おおむねできた」と回答した教員が80%以上100%未満であった。	3		2 50%以上		C	0	
			1.「おおむねできた」と回答した教員が50%未満であった。	3		1 50%未満		D	0	
		②学習習熟度に応じた指導や個にあった学習支援、各種検定の実施を通じて、すべてのことに継かな学力の育成を図っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。	3						
			3.「おおむねできた」と回答した教員が80%以上100%未満であった。	3						
			2.「おおむねできた」と回答した教員が50%以上80%未満であった。	3						
			1.「おおむねできた」と回答した教員が50%未満であった。	3						
		③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。	4						
			3.「おおむねできた」と回答した教員が80%以上100%未満であった。	4						
			2.「おおむねできた」と回答した教員が50%以上80%未満であった。	4						
			1.「おおむねできた」と回答した教員が50%未満であった。	4						
		④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。	3						
			3.「おおむねできた」と回答した教員が80%以上100%未満であった。	3						
			2.「おおむねできた」と回答した教員が50%以上80%未満であった。	3						
			1.「おおむねできた」と回答した教員が50%未満であった。	3						
		⑤就園学習児童の支援を基に末に親しみきっかけづくりを家庭食活動を通して行い、就園活動の定着を促している。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。	3						
			3.「おおむねできた」と回答した教員が80%以上100%未満であった。	3						
			2.「おおむねできた」と回答した教員が50%以上80%未満であった。	3						
			1.「おおむねできた」と回答した教員が50%未満であった。	3						
学個校別力目・標教4師力を向上させます	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するための、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っています。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	「授業の内容はよく理解できる」とアンケートに答えた生徒の割合	4 80%以上	（これまでの取り組み） ・校内研修など他教員の授業を参観し、自らの授業をブラッシュアップする機会を設けている。 ・校内研究を年数回行い、それぞれが研鑽し、若手教員は若手で育てていく風土がある。 ・適材適所の配置を行い、足りた十には学年の枠を飛び越えて声を掛け合って運営している。 ・校内研修で授業力の向上に努めている。今年度から、対話的学びの大学の研究者を招き、校内研修を行っている。 （今後の改善策） ・組織的な運営の面で、各学年経営の違いを組めることと課題がある。実践内容の共有や情報交換は行われているものの、表層的なものの共有になっている。学年間の違いを良さと捉えるか、課と捉えるか、学校としての共通のものがもう少しあると良い。 ・次年度も研修を継続する	A	5	・教育現場では一番肝となる部分である。 ・全て良い取り組みと理解している。 ・民間企業、社会等でも緩刷り業務があり疎外要素と感じる。 ・最も大変なテーマと感じているので今後とも続けていって欲しい。
			3.「おおむねできた」と全教員が回答した。	3		3 65%以上		B	3	
			2.「おおむねできた」と回答した教員が80%以上100%未満であった。	3		2 50%以上		C	0	
			1.「おおむねできた」と回答した教員が50%未満であった。	3		1 50%未満		D	0	
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。	4						
			3.「おおむねできた」と回答した教員が80%以上100%未満であった。	4						
			2.「おおむねできた」と回答した教員が50%以上80%未満であった。	4						
			1.「おおむねできた」と回答した教員が50%未満であった。	4						
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4.「おおむね高まっている」と全教員が回答した。	2						
			3.「おおむねできた」と回答した教員が80%以上100%未満であった。	2						
			2.「おおむねできた」と回答した教員が50%以上80%未満であった。	2						
			1.「おおむね高まっている」と回答した教員が50%未満であった。	2						
た自個分別の目学し標びく5をを支き援しきまとす生きる	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの機能に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	「先生は困ったり悩んだりしたときに、誰かになって相談にのってくれると思う」とアンケートに答えた生徒の割合	4 80%以上	（これまでの取り組み） ・担任任せにすることなく、授業の進め方、教室の雰囲気、日々の生活が通う足はいます。スクールカウンセラー、サポートルーム、巡回心理士と連携し、困難のある生徒に対して情報共有し、解決策を検討している。 ・特別支援学級があることもあり、日常的に個別の支援について話し合いが行われている。 ・教育相談やアンケートなどを通じて生徒の困り感に気付くことができるようにしている。また必要に応じてスクールカウンセラーやサポートルームに繋げられるように連携している。 ・校内支援のシステムの構築、習熟度、オンライン、別室対応、休み時間や放課後を使って補習や個別への指導など、多岐にわたって行われていると思う。ただし、そこに割く時間的、心理的ゆとりが教員側にないことが課題である。 ・校内の学習環境を整備	A	7	・今は、不登校の子供のサポートが充実していることに感謝したいと思う。 ・不登校の子供たちはもちろんだけではなく、居場所が必要で話を聞いてくれる人が大事だと思う。 ・近頃では生徒に対して学校全体が配慮する方向に傾いていると感じます。特に困難のある生徒の行き場づくりは大切で一人でも多く学校が救いの場になるよう願っている。 ・方向性取り組みと取り組み内容すべて良いと感じる。 ・子供たちが大人へと成長する過程で感受性が生まれる時期でもあるので親身な対応を続けていって欲しい。 ・自己表現が難しい子供たちを全て真摯に向き合って受け止めてあげて欲しい。
			3.「おおむねできた」と全教員が回答した。	3		3 65%以上		B	1	
			2.「おおむねできた」と回答した教員が80%以上100%未満であった。	3		2 50%以上		C	0	
			1.「おおむねできた」と回答した教員が50%未満であった。	3		1 50%未満		D	0	
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見・早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4.「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。	3						
			3.「組織的な対応ができた」と回答した教員が80%以上100%未満であった。	3						
			2.「組織的な対応ができた」と回答した教員が50%以上80%未満であった。	3						
			1.「組織的な対応ができた」と回答した教員が50%未満であった。	3						
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。	3						
			3.「おおむねできた」と回答した教員が80%以上100%未満であった。	3						
			2.「おおむねできた」と回答した教員が50%以上80%未満であった。	3						
			1.「おおむねできた」と回答した教員が50%未満であった。	3						
安全・安心で目的な教育環境を学び空間まとす安全・	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	「先生は、ICT機器を活用し、黒板の書き方をわかりやすくしてくれる」とアンケートに答えた生徒の割合	4 80%以上	（これまでの取り組み） ・子ども家庭支援センターや児童相談所との連携もスムーズである。 ・生徒の安全のため、給食の授業などにおいて気遣神の行動を指導したり、避難訓練を定期的に実施したりしている。 ・1年時のソーシャルスキルトレーニングや生活安全に関する授業を行い安全・安心な学校になるよう取り組んでいる。 （今後の改善策） ・教室だけでなく、体育館や集会室など、ICT環境は比較的恵まれている。ただし、不具合など投資することも事実であり、支援員が在校する日程が増えて欲しい。 ・安全面では、学校の構造上仕方ない部分はあるが、廊下に窓のない教室などは空気の流れが悪い。新しいトイレ以外は、設備と安全とは言えない部分があるので改善が必要である。	A	4	・安全面での改善は何よりも優先して役所の担当が調査して早く解決できるよう願う。 ・方向性取り組みと取り組み内容全て良いと感じる。 ・今後の改善策は現場の問題点であるため、予算等を含め優先順位を決めて進めていくことを望んでいる。
			3.「おおむねできた」と全教員が回答した。	4		3 65%以上		B	4	
			2.「おおむねできた」と回答した教員が80%以上100%未満であった。	4		2 50%以上		C	0	
			1.「おおむねできた」と回答した教員が50%未満であった。	4		1 50%未満		D	0	
		②避難訓練や安全教導日などを通して、生徒や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。	3						
			3.「おおむねできた」と回答した教員が80%以上100%未満であった。	3						
			2.「おおむねできた」と回答した教員が50%以上80%未満であった。	3						
			1.「おおむねできた」と回答した教員が50%未満であった。	3						
		③電子黒板やタブレット現実の入れ替えが行われた中で、全生徒が活用しやすいICT環境を整備している。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。	3						
			3.「おおむねできた」と回答した教員が80%以上100%未満であった。	3						
			2.「おおむねできた」と回答した教員が50%以上80%未満であった。	3						
			1.「おおむねできた」と回答した教員が50%未満であった。	3						
学地学個域校別をコ・目コミ家標くュ庭7ニ・まテ地ィ域の検連と携し・協の働によるを	地域コミュニティの核として中学校づくり（お目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	①「地域コミュニティの核として中学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	「教職員は、地域・保護者との連携・協力を積極的に教育している」とアンケートで答えた保護者・地域の方の割合	4 80%以上	（これまでの取り組み） ・学校公開週間など、地域の方や保護者に学校の取組の様子を見てもらえるよう機会を設けている。 ・地域の防災活動、お祭り、ドッジボールに参加したり、ガーデンパーティに参加することで連携を半助けたりすることなどを通して地域社会とともにこどもの育成に取り組んでいる。 （今後の改善策） ・行事や面接練習などで、地域の方が参加されれば、授業を以前より増えている。授業を参観を多くしたり、作品展示をして保護者や地域の方にみていただくことで、生徒の成果や、状況を把握してもらうことは、良い機会なので、継続していくことは大切である。 ・SNSや生活習慣について家庭ともう少し連携していく必要がある。 ・地域への協力依頼を学年単位で総会の内容に絞めて企画できると考える。	A	4	・地域とのかかわりは大切だと思う。今後もボランティア活動などと、地域の方々と一緒に子育てをしていけるとよいと思う。 ・大変良い取り組みをしていると思う。以前からもボランティアに参加する生徒が多く、感心している。日頃からの取り組みの積み重ねが、生まれ育った地域愛を養うことにつながると思う。 ・ボランティア活動に積極的に取り組む姿勢、生徒が地域で活躍する姿は大変頼もしく喜ばしいと思う。 ・地域に住んでいるものとして協力できることがあれば参加していきたいと思う。 ・地域でのボランティア活動に大いに期待とお願いをしたいと考えている。 ・方向性取り組み、取り組み内容は全て良いと思う。 ・今後の改善策で地域参加の機会は良いことだと感じる。 ・学びの場は学校だけでなく地域と共同で行うことだと思うので町会にもっと声をかけて欲しい。 ・SNS、家庭での生活習慣は一番気を使うものなので慎重に対応して欲しい。
			3.「おおむねできた」と全教員が回答した。	3		3 65%以上		B	4	
			2.「おおむねできた」と回答した教員が80%以上100%未満であった。	3		2 50%以上		C	0	
			1.「おおむねできた」と回答した教員が50%未満であった。	3		1 50%未満		D	0	
		②急下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全性に係る取組を地域の協力により実施している。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。	3						
			3.「おおむねできた」と回答した教員が80%以上100%未満であった。	3						
			2.「おおむねできた」と回答した教員が50%以上80%未満であった。	3						
			1.「おおむねできた」と回答した教員が50%未満であった。	3						
		③実践教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。	3						
			3.「おおむねできた」と回答した教員が80%以上100%未満であった。	3						
			2.「おおむねできた」と回答した教員が50%以上80%未満であった。	3						
			1.「おおむねできた」と回答した教員が50%未満であった。	3						
		④生徒に地域行事の参加を呼びかけたり、地域のボランティア活動に協力し、生徒が地域において社会奉仕の精神を養う活動を実施している。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。	4						
			3.「おおむねできた」と回答した教員が80%以上100%未満であった。	4						
			2.「おおむねできた」と回答した教員が50%以上80%未満であった。	4						
			1.「おおむねできた」と回答した教員が50%未満であった。	4						

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載する。